

保障型商品分野で価値を生み出す

2013年11月29日

- 自由市場化を睨み戦略シフトを加速
- 投資商品ではなく保障型商品に重点を置く
- 今後の着実な価値の増大
- 14年度の投資収益がプラスの手がかり材料



予想の修正 (%)

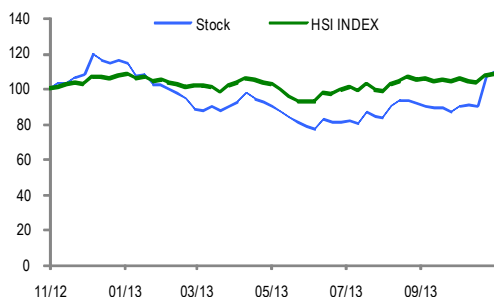
12月31日決算	13年度予想	14年度予想
売上高の変更	-	-
純利益の変更	-	-
EPSの変更	-	-

主な銘柄データ

52週間の高値/安値	27.35/ 17.00HKドル
30日間の1日当りの平均出来高	43.27 m
発行済み株式数	7,441 m
時価総額	185,285 m

主要株主 China Life INS.非H株(68.37%)

株価パフォーマンス



主要財務データ

12月31日決算	2012年度	2013年度予想	2014年度予想
売上高(100万人民元)	322,126	336,622	319,791
伸び率 (%)	1.2	4.5	-5.0
純利益(100万人民元)	11,061	27,734	35,671
伸び率 (%)	-39.7	150.7	28.6
EPS (人民元)	0.39	0.98	1.26
伸び率 (%)	-39.7	151.6	28.6
PER (x)	51.1	20.3	15.8
PBR (x)	2.5	2.2	1.9
P/EV (x)	1.9	1.5	1.3
イールド (%)	0.7	1.5	1.9

出典:京華山一

最新情報

新たな環境下での変換 当社は、11月28日に開催されたChina Life (CL)の投資家説明会に参加した。経営陣は新たな課題ならびにチャンスに直面する中での変換ならびに発展戦略に関する説明を行った。それは、成長規範を“数量ならびに価値の両方の重視”から“価値ならびに効率の重視”へ、“初年度保険料(FYP)主導”から“更新保険料主導”へ、“投資志向型商品”から“保障志向型商品ならびに多様化商品”に変更することを目指すものである。

自由市場化を睨み戦略シフトを加速 戦略シフトは、概ね CL の従来の長期目標に沿ったものである。金融市場に関して規制を更に緩和し自由化を進めるという中国の政策当局者の決定を受けて、保険会社は銀行、信託銀行、その他の金融機関との競争激化に直面している。そのため、当社は今後戦略シフトの進行ペースが加速すると見込んでいる。

保障型商品に重点を置く 経営陣は、(1) 長期定期払い事業、(2) 従来型商品を重視する今後の事業発展戦略を明らかにした。今後、同社は年金、重大疾病、医療保険商品という3種類の保障型商品により重点を置く予定である。

今後の着実な価値の増大 代理店チームならびに銀行窓販が、今後も引き続き CL の販売チャネルの主力となるだろう。経営陣は14年度の総収入の伸びがマイナスになる可能性を示唆したが、長期定期払い商品をより重視することから、14年度に新事業価値は1桁の伸びを維持する見込みである。

14年度の投資収益がプラスの手がかり材料 経営陣は、14年度に相当な投資収益を達成できると確信している。プラスの手がかり材料は、確定利付き投資(社債を含む)の一層の重視ならびに改革を更に推し進めるといふ政策に関する最新の青写真を受けたA株市場の明るい展望である。

免責事項:本資料は、情報の提供のみを目的としたものであり、有価証券の売買の推奨を意図したものではありません。コアパシフィック山一インターナショナル(香港)は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。本資料は、信頼に足ると考えられる情報源を基にしておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料内で示す内容は予告無く変わる場合があります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。コアパシフィック山一インターナショナル(香港)またはコアパシフィックグループの企業、同グループに關係ある個人は、本資料の使用または本資料への信頼に起因するいかなる法的責任も負いません。当資料の一切の権利はコアパシフィック山一インターナショナル(香港)に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則(平 14.1.25)」に基づく告知事項>
本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。